



① 第4回 人権・同和教育ホームルーム活動

**3年生** 「差別をなくすために私たちができることは何か」というテーマで取り組みました。現在までの人権・同和教育の成果と、今もなお社会に残されている差別の現実を確認し、卒業後、自分ができるといことを考えました。



【3年生の感想より】

- ・親と差別について話す機会ができ、親の差別に対する気持ちを知ることができて良かった。
- ・自分が親になったときに、人権・同和教育で学んだことを自分の子供に伝えたいと思った。
- ・小学生の時から人権・同和教育を学んできて、多くの知識を身に付けることができた。これからは、学んだことを行動に移せるようにしたい。そして今後も、差別を許さない人間でい続けたい。

**2年生** 人権の歴史について「識字学級」から学びました。差別されてきた人々の思い、悔しさ、悲しみに気づき、この差別をなくすために、自分たちは「正しく」学び、「行動」していかなければならないことを確認しました。



**1年生** 「これまでに学習した内容について、実生活で行動に移せているか？」ということをしつくりと考えました。正しく学んで正しい知識を身に付け、学んだことを実践し継続することの大切さを確認し、そのことが、自分や大切な人の人権を守ることに繋がるといことを学びました。



② 土居隣保館まつり

人権作文の発表やポスターの出品をしました。



『言葉の責任』 三木真緒さん



③ 人権委員コーナー 【2学期号 人権クイズのこたえ】

安藤 正楽 (あんどう せいがく) 【1866~1953】

1902(明治35)年に愛媛県議会議員として初当選した議会で、被差別部落の子どもの多くが、地元の小学校に行けず、分教場で学んでいる差別的な状況を改善するよう繰り返し要求し、その実現を図った人物です。差別が放置されていたこの時期に公的な場で先頭に立って差別撤廃を訴えた彼の行動は、画期的なものでした。先人から多くのことを学び、私たちも、『差別をなくす人』になるように、行動していきたいですね。

